

令和6年度 体育科実践・研究計画

部員	○山田 幹、佐々木 駿斗
----	--------------

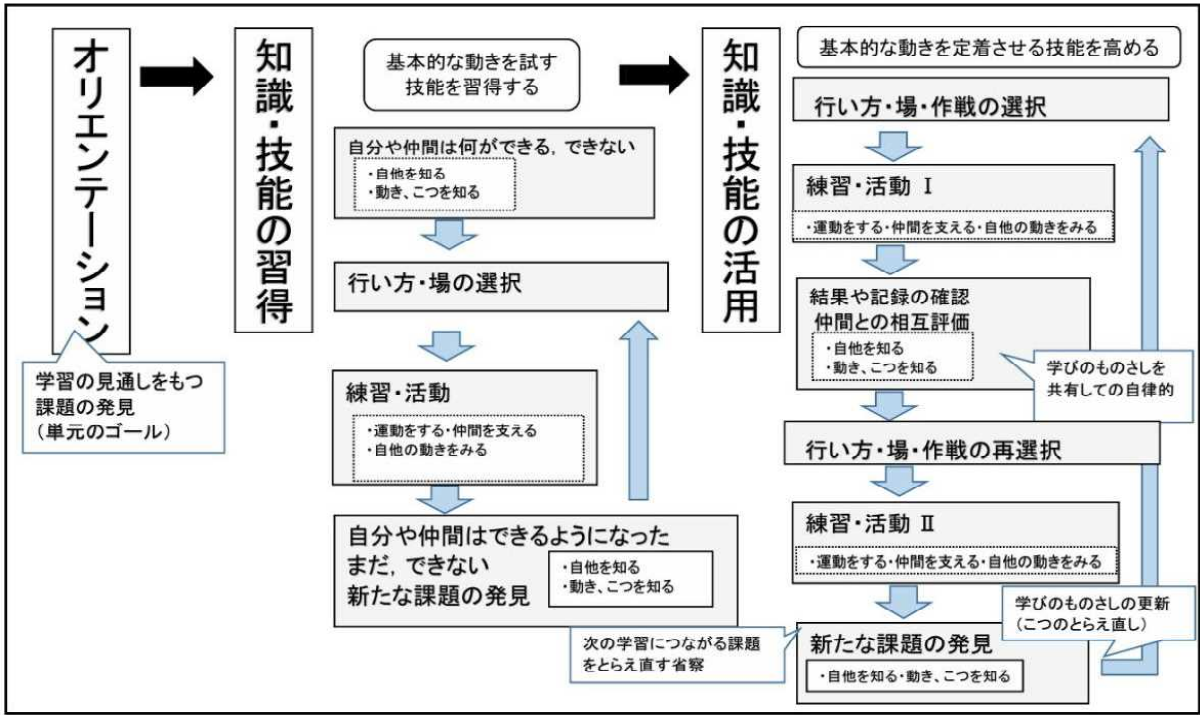
研究テーマ
自他の課題を解決する中で、運動との多様な関わり方のよさを実感する子どもを育む学び

1 研究テーマについて

運動の特性に着目しながら、楽しさや喜びを味わい体力を向上させる中で、運動を通して『する・みる・支える・知る』などの多様な関わり方について子どもが考えることが重要である。昨年度の実践では自他の現状把握が、互いの必要な「学びのものさし（こつ）」に気付く手立てとなった。自身の課題追究のための最適なこつを選択し、さらなる課題解決に生かしていく姿も見られた。しかし、技や動きを見て、どんな状態にあるか把握し、どうすれば改善できるか分析することについては個人差があり、十分に課題解決が図られていない場面もあった。

今向き合っている技や動きに対して昨年度と比べ、自分がどう変わったか、必要なこつは何かなど、新たにこつを捉え直し、身に付けていく姿を期待し、「自他の課題を解決する中で、運動との多様な関わり方を実感する子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

体育科で目指す自律した子どもの姿
 ・見付けた課題の解決に向け、自分の考えを仲間に伝えようとする姿
 ・身に付けた動きのこつを、他種目の動きに活用とする姿



図：体育科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 〈○は具体的な取組の例〉

こつの捉え直しに向かう姿を引き出すための学びのデザイン

- 学習過程の工夫
 - 導入部～「どこから見るか」「何を見るか」など、動きの見方の意識化と動きの完成形の共有化
 - 展開部～自分（たち）で動きのこつを「探す」「共有する」「選択する」「試す」場の設定
- 課題やこつを見付け伝え合う活動の充実
 - ・ICTの活用や学習形態の工夫を通じた自他の現状把握と分析や課題設定
 - ・練習の場や方法の選択
 - ・こつの発見と活用